

JBICは、開発途上国の経済や社会の発展、福祉の向上のために、ODA(政府開発援助)の大きな柱である円借款業務を実施しています。

開発途上国の経済開発や福祉の向上に寄与するために、先進国の政府または政府機関が、開発途上国に対して資金や技術の提供を通じて協力するしくみがODA(Official Development Assistance: 政府開発援助)です。このうち円借款は、低利で長期の緩やかな条件の下に、円貨を貸し付ける援助のことをい、当行が実施しています。



パキスタン「インダス・ハイウェイ建設事業」  
写真: 藺田 元 (アイ・シー・ネット (株))

### 1. ODAとはどのようなものですか?

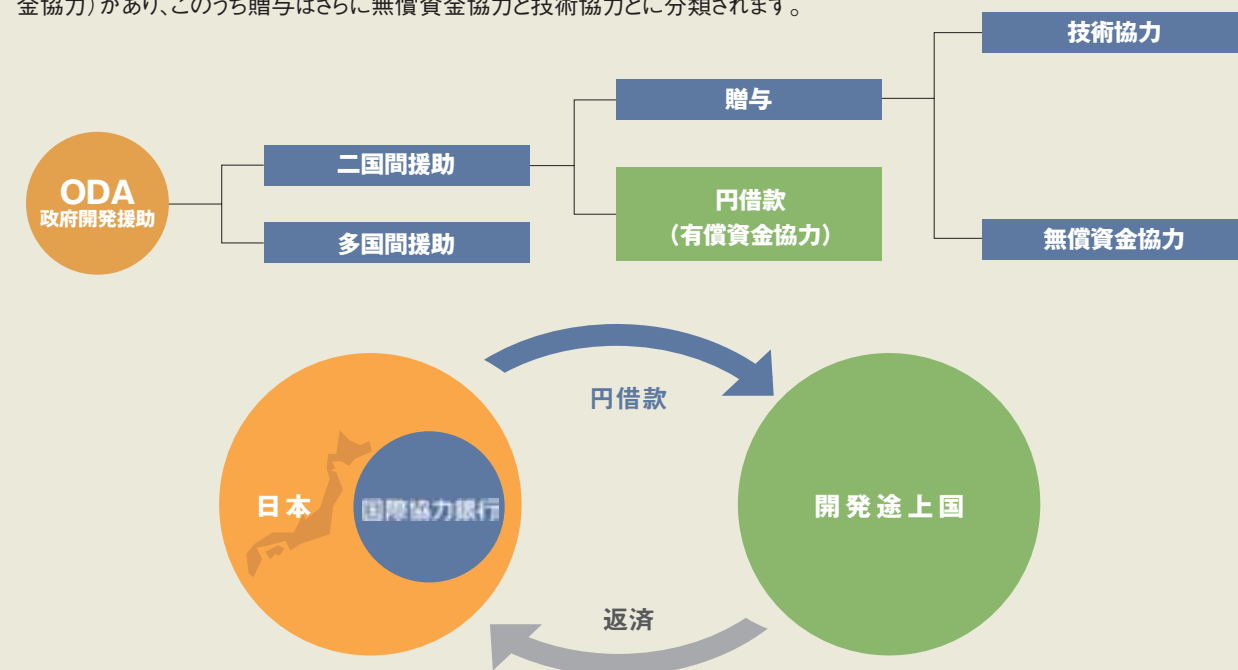
ODAの定義として、(1) 政府もしくは政府の実施機関によって供与される資金であること、(2) 開発途上国の経済開発や福祉向上に貢献すること、(3) 開発途上国の負担が重くならないようグラントエレメント<sup>※1</sup>が25%以上であることが挙げられます。近年では、地球温暖化対策やスマトラ沖大地震・インド洋津波災害を含む災害の復旧・復興、イラク等の紛争地域における平和構築、貧困削減も含むミレニアム開発目標の達成

等、国際社会全体で取り組むべき共通課題に対する支援ニーズが拡大しています。支援ニーズの拡大に対応するため、わが国でも、閣議決定された「骨太の方針2005」でODAの対GNI比0.7%<sup>※2</sup>目標の達成に引き続き努力することが打ち出されています。

※1 贈与を100%とした場合の援助条件の緩やかさを示す指標  
※2 我が国のODA実績の対GNI比は0.19% (2004年暫定値)

### 2. 日本のODAで円借款はどのような位置付けなのですか?

ODAは、開発途上国を直接援助する二国間援助と、国連などの国際機関を通じて援助する多国間援助に分けられます。また、二国間援助には、形態別に贈与と円借款(有償資金協力)があり、このうち贈与はさらに無償資金協力と技術協力とに分類されます。



### 3. 円借款にはどのような意義・特長があるのですか?

#### 円借款の意義

円借款の意義として、①開発途上国の主体性促進、②ミレニアム開発目標への対応、③持続性への貢献、④依存から自立への橋渡し、⑤資金の安定性、⑥我が国と開発途上国の関係強化、が挙げられます。

#### インフラへの支援

ミレニアム開発目標達成のために、円借款の供与を通じ、今後もインフラ網の適切な整備・運営を図り、開発途上国の持続的な成長を支え、同時に貧困層のインフラ・サービスへのアクセスを高めることで貧困削減を進めることが重要となります。

#### 円借款の多様性

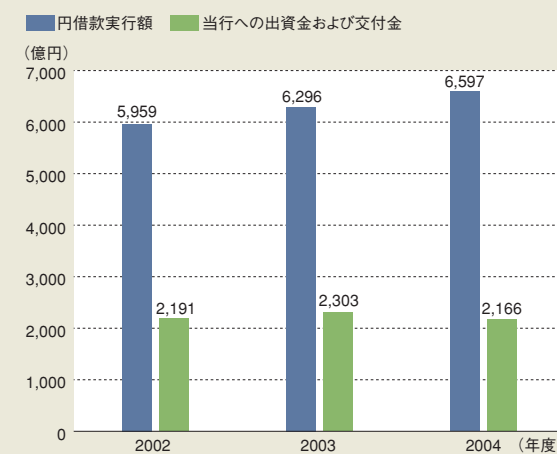
円借款では、インフラ支援を中核としながらも、開発ニーズの多様化を踏まえ、①開発途上国の貧困削減への取組みに対する政策的支援、②人間の安全保障への取組み、③平和構築に向けた復興支援、④世界遺産保全への支援、⑤防災支援といった多様な取組みを行っています。

詳細は、「海外経済協力業務実施方針」(当行ホームページにも掲載)を参照ください。

### 4. 円借款の支援額と国民の負担額はいくらですか?

円借款では、開発途上国から資金が返済されることから、少ない国民負担で効率的に援助を行えます。規模の大きな支援が行いやすく、ミレニアム開発目標の達成に資する大型事業に対する支援を行うことが可能です。

#### 円借款実行額と出資金・交付金



安全な水を利用できるようになった受益者  
(スリランカ「コロンボ東部上水事業」)



円借款で保全を支援している世界遺産  
(インド「エローラ・アジャンタ遺跡保護・観光基盤整備事業」)